



「尚徳」 1月号 第519号

平成28年1月29日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明校長



子どもらしさ

副校長 谷口 英昭

新年、あけましておめでとうございます。

旧年中から年明けにかけて、例年になく暖かい日々が続き、「もう、このまま春になってしまうのではないか。」「雪の学校はどうしよう。」と心配もしました。

しかし、寒さはしっかりとやってきました。寒さの割に、積雪は少なかったのですが、校庭にも数センチ雪が積もりました。

登校してきた子どもたちは、さっそく校庭で雪遊びを始めます。雪合戦に雪だるまなど、大勢の子どもたちが遊んでいました。「この寒いのに。靴下も濡れるかも…。」と思うのは、ほとんど大人だけです。

子どもたちは我を忘れて、めいっぱい遊びます。興味・関心のあることに時間を忘れて没頭し、「あっ、しまった。」というような経験は、皆さんありませんか？大人のだれもが通ってきた道です。それが、子どもらしさではないでしょうか。

時として、他人に迷惑をかけて叱られることもあるでしょう。悔し涙を流したり、うまくいかなくて腹を立てたり…。やがて、徐々に、失敗しないための手立てや我慢する自制心を身につけていきます。

子どもが成長するには「子どもらしさ」が発揮できる体験をたくさん積む必要があると思います。命に関わるような重大な失敗をしないよう注意しながら、温かく見守っていききたいものです。



【雪遊びは楽しいよ！】



【春を待つ桜の芽】

学校評価（保護者評価）アンケート実施

1月に、学校評価（保護者評価）アンケートを実施いたしました。保護者の皆様には、ご多用の中、ご協力いただき感謝申し上げます。

ご提出いただいたアンケートには、学習や生活、教育環境や異学年や附属学校園等の交流等の多岐にわたる内容について、その取り組みの成果や今後に期待にすること、逆に、学校・児童・保護者に関わる課題など、多くのご意見がありました。

今回のアンケートを後日集計し、その結果をご報告するとともに、ご提言いただいた内容につきましては、来年度に向けて検討させていただきます。



【附属幼稚園との交流（1年）】

2月の主な行事予定

- 1日（月）雪の学校 ～3日（水）（5年）
- 9日（火）委員会活動
- 11日（木）建国記念の日
実りの学校・弁当の日
- 12日（金）代休
- 16日（火）おはようおはなしの会（下学年）
交流給食
- 18日（木）PTCC井戸端会議13：00～
- 19日（金）おはようおはなしの会（上学年）
- 23日（火）懇話会執行部会13：30～
- 25日（木）教育相談（希望）1日目15：00～
- 26日（金）教育相談（希望）2日目15：00～
- 28日（日）市P卓球大会（県民体育館）
- ※ 3月17日（木）卒業式
- ※ 3月24日（木）終業式・離任式

冬の体力づくり…縄跳び

冬は、グラウンドが使えないことも多く、体育の時間では、縄跳びに取り組むことが多くなります。

学年や個々の実態に応じて、「前跳び」「後ろ跳び」「あやとび」「二重跳び」など、自分の技のレベルが上がるよう、挑戦しています。中には、「はやぶさ跳び」や「三重跳び」ができる子もいます。

体育の時間だけでなく、休憩時間にも、玄関前や家庭科室前で誘い合って練習している子どもたちの姿もあります。上達の【縄跳び（４年）】影には、嘘のない努力があるのです。チャレンジする子どもたちの姿を見るのが楽しみです。



英語活動授業研究会

１月２７日（水）に、２年生の英語活動の校内授業研究会を実施しました。

本校では、全学年で英語活動を実施しています。今後の英語科の導入を念頭に、県教育委員会にもご示唆をいただきながら、研究に取り組んでいるところです。

保護者の皆様からも英語活動に関して前向きな意見を数多くいただいています。

ご期待に沿えるよう今後も、工夫改善に向けて研鑽していきます。



【英語活動（２年）】

P T C C井戸端会議ご案内

２月１８日（木）１３時より、附属小学校にて、P T C C井戸端会議を開催します。鳥取大学の石本雄真先生を講師にお迎えし、日ごろ気になっていることや関心のあることについて話し合うとともに、学年を超えた保護者の皆様のつながりが広がる場となればと思っています。

多数のご参加をお待ちしています。

「せぼね」を育ててみませんか？

教諭 谷口 友理枝

私は月に３回のペースでヨガ教室に通っています。ヨガというと、体を柔らかくしなやかに動かしてポーズをきめるというイメージですが、そんなことは私にはできません。それでも、なんと１０年以上も続いているのです。

そのひみつは、「せぼね」です。私の通っているヨガ教室では、自分の体をしっかりとみつめます。「ヨガ」ですので、柔軟性が求められる前屈などのポーズもするのですが、力の限り体を曲げて痛いだけです。そこで一呼吸おき、自分の背骨がどうなっているかイメージします。そして、その背骨が伸びるイメージを持ちながら体を曲げていくと、あら不思議。気づくと膝におでこがついているのです。自分の体を支えている「せぼね」。この「せぼね」がうまく働くと体は無理なく動くようです。そして「せぼね」がしっかりと体を支えると、心まですっきりする感じがします。

これは日常生活の中でも応用できます。すごく緊張する場面や、ものすごく腹が立って感情のままに怒りたくなってしまう場面で「せぼね、せぼね」と自分の背骨をちょっと探してみると、心に少し余裕が出て気持ちが楽になります。おすすめですので、ぜひ試してみてください。

そして、ヨガの先生によると、子どもたちの「せぼね」は大人よりもはるかによく働くそうです。すぐに大きな変化は感じられなくても、落ち着いて物事を考えたり持っている力をきちんと出したりできるようになります。いざというときに頼れるのは「自分」なのです。

しかし、最近の子どもたちの多くは、自分の体を背骨で支えることができていません。もったいないことです。

背骨を伸ばすといっても、力を入れて体が反るほど緊張させるのではなくて、ちょっと触ってみるだけ、ちょっと考えてみるだけでよいのです。それだけできちんと「せぼね」は働きます。親子のふれあいのひとときに、「せぼね」をお互いに触ってみるのもいいかもしれません。

「せぼね」を育ててみませんか？

